

世界の目を ▶ 先端ロボット技術へ 東京五輪に未来体験場

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に併せて、先端ロボット技術を使った夢の未来社会を誰もが体験できる「実験場」を作り、世界に発信しようという国家プロジェクトが文部科学省の主導でスタート。本学未来ロボット技術研究センター(fuRo)が同省とともにプロジェクトを推進する「ユニバーサル未来社会推進協議会」の事務局を務めることになった。

ユニバーサル未来社会推進協議会の初会合。
(左から)古田副会長、鈴木会長、毛利顧問、山中副会長、田中副会長(文部科学省で9月15日)



NEWS CIT

2015
ニュースシーアイティ **10.15**

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<http://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 来年から5学部17学科へ／工学部再編・学長に聞く／台湾2大学と交流協定
- 3面 坂本研院生3人が受賞／鈴木君が奨励賞／PM国際資格に8人合格／南方准教授が論文賞
- 4面 大学体育フラッグフットボール開く／袖団活性化ウイーク／加藤研がオーピック応援／科学未来館で荒井席研究員が講演
- 5面 校友特集「松本忠夫氏」1期生が語る学生時代
- 6面 本学フォーミュラ本格復帰／理工学教室今年も／クラブ活動状況

f u R O 推進のもと

国家プロジェクト 本学に事務局

9月15日に開かれた同協議会の初会合で、会長に元参院議員で文部科学大臣補佐官を務める鈴木寛・東大教授兼慶応大教授、顧問に日本科学未来館の毛利衛館長が就任し、副会長に古田貴之・fuRo所長、デジタルフューチャー・イン・イノベーションが専門の田中浩也・慶応大准教授、アスリートで元オリンピック選手の為末大氏、「Hallucii」などのロボットの共同開発で本学と関係の深い山中俊治・東大教授が選ばれた。

■ ショーケース化

安倍内閣が今年6月に閣議決定した「日本再興戦略」(改定2015)では、世界の視線が日本に集まり、大勢の人が来日する2020年までに、将来日本の中核となり、後の世代に財産として

■ 古田所長の協議会でのあいさつ(9月15日)

私のポリシーは「ものづくり」ではなく「ものづくりへの」。科学技術・ロボット技術はあくまで人を幸せにするためのツールです。2020年を控え、日本の科学技術をツールにして、日本人が描くユニバーサルな未来社会を世界に発信したいと思っています。

て継承できるプロジェクトを、政府を挙げて推進するとし、中でもわが国の強みを発揮できるものとして6つのプロジェクトを掲げている。その一つが「先端ロボット技術によるユニバーサル未来社会の実現」で、文部科学省と経済産業省が出した同種の提案を首相官邸で一本化した。文科省案は、同省からの依頼でfuRoが提出した原案がベースになった。

このプロジェクトは人種や民族、宗教・文化・言語、老若男女などの違いを乗り越え、あらゆる生活空間で人が先端ロボット技術の恩恵をいかに受けられるか、その実際シーン(実証プロジェクト)を企業などに提案・構築してもらい、ショーケース化しようというものである。

例としてパーソナルモビリティや多言語翻訳、案内ロボット、さらに市街地での自律移動型ロボット、手荷物運搬ロボットロボットなどが挙げられている。

また、実施場所として文科省は日本科学未来館や東京国際交流館、産業技術総合研究所があり、オリンピックで体操、テニス、ビーチバレーなど

の競技が開催される東京臨海副都心のお台場、青海地域を想定している。さらに幕張など、その他のオリンピック競技が行われる地域に実施場所が広がる可能性もある。

■ 1次募集を開始

企業などから募る実証プロジェクトは単に夢があるというだけでなく、あるとすれば、後の世代に事業化され、後の世代に「財産」として残るもの

でなければならぬ。1次募集は10月に始まり、11月末に締め切られる予定。fuRoの石黒周副所長、清水正晴主席研究員らのスタッフが募集の実務と選考に当たる。

新食堂棟・新体育館

来春完成へ上棟式

新習志野



新食堂棟(右奥)



新体育館(左)。横には国際交流会館も



新習志野キャンパス再開に伴う新食堂棟と新体育館(ともに仮称)の基本構造が立ち上がり9月16日、上棟式(棟上げ)が行われた。式は建設地で午前11時に始まり、瀬戸熊修理事長(右)の写真中央、小宮一仁学長をはじめ教職員が出席。設計・監理にあたる横河建築設計事務所や施工の三井住友・五洋建設共同企業体の関係者を含め90人余が工事の安全を祈願した。修葺式では瀬戸熊理事長が金鉞を、小宮学長が銀鉞を検査、昇神の儀を最後に神事を終了。正午から直会に移った。新食堂棟は鉄骨造4階建てで延べ床面積8401平方メートル、高さ23・4メートル。新体育館は鉄骨造2階建て、延べ床面積3675平方メートル、高さ16・7メートル。いずれも完成は来年3月の予定。

5学部17学科へ

工学部を「3学部12学科」に再編

来年4月

本学は、現在の工学部6学科を改組し、新たに工学部、創造工学部、先進工学部の3学部12学科に再編。来年4月には、既存の情報科学部、社会システム科学部と合わせて、5学部17学科でスタートする。

工学部を3つの学部に分けたのは、より専門性に特化したカリキュラム・学びで、プロフェッショナルな力を身に付けることができるよう、環境を整えるのがねらい。

平成15年に、本学は工学部9学科を5学科に改組した（18年に未来ロボティクス学科を増設。10年を経た今回の再編は、学部・学科の規模を適正化するとともに、学生に、より分かりやすいカリキュラムの提供を目指している。新しい工学分野を導入しながら、共通点のある学科を体系立てながら再編した（下図参照）。

多様性を、分かりやすく

工学部再編 小宮学長に聞く

高校生や中学生、高校・中学の先生、社会の皆様は千葉工大の魅力伝える

平成15年の工学部改組から10年。いま企業の目には千葉工大工学部の卒業生が何を学び、何を身に付けているか、特に学生数の多い学科について必ずしも明確に映っていない可能性がありま

す。これは、当時の高校生が二の三に合わせた改革であったにもかかわらず、300人定員の大きな学科の存在は、入学後にコース制などで分野を絞るなどの工夫をしても教育の面ではたいぶ苦労することになりました。そこで学長に就任後、直ちに工学部改組に着手

し、新しい工学分野の導入を含めて、工学部6学科を3つの学部の12学科に再編しました。これによって、各学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、デュ

プロマボリシーが明確に学んで、生活環境に直接的に関わる創造的な領域を学ぶ。

先進工学部も3学科と、バイオ、環境、ロボット、メディア感性、知能など、旧来の枠にとら

われな柔軟な発想をもった新しいエンジニアを育成する。

高度情報化社会の発展につなげるために、人とコンピュータの未来を描き出す力を身につけていきます。

世界の仕組みを知り、システムをつくる人材として必要な知識・技術・能力を学び、培っていきます。

○ ~2016年3月

工学部

機械	サイエンス	学科
電気	電子情報	工学
生命	環境	科学
建築	都市環境	学
デザイン	科学	科
未来	ロボティクス	学

今回の再編において、「工学部」を3つの学部に分け、より専門性に特化したカリキュラム・学びで、プロフェッショナルな力を身につけることができる環境を整えます。

● 2016年4月~

工学部

入学定員	140人
機械	110人
先端	110人
電気	140人
情報	110人
応用	110人

創造工学部

入学定員	140人
建築	110人
都市	110人
デザイン	120人

先進工学部

入学定員	120人
未来	110人
生命	110人
知能	110人

情報科学部

入学定員	140人
情報	140人
情報	140人

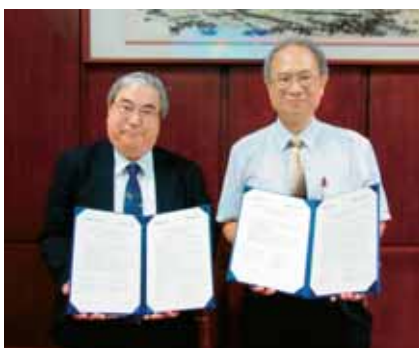
社会システム科学部

入学定員	110人
経営	110人
金融	60人

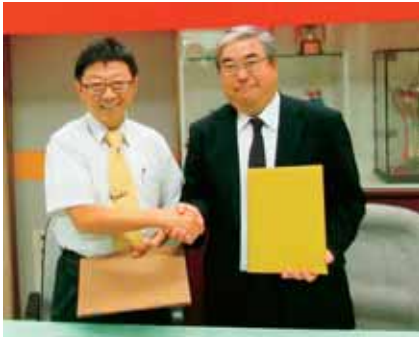
新たに台湾2大学と

交換留学など交流協定結ぶ

小宮一仁学長は9月17日に台湾・東海大学、18日には国立台湾大学工学部を訪問し、両大学と交流協定を締結した。本学の海外交流協定大学はこれ



協定書を手にもつ小宮学長と林振東東海大学学長



顔家鈺国立台湾大学学長と小宮学長

100周年に向けて「確固とした経営基盤づくり」の重要性を私も強く認識しています。その実現のために、「世界文化に技術で貢献する」人材の育成という千葉工大のモットーを関係者全員で共有し達成できる大学づくりを進めていきたいと思っています。

私は、全国あるいは全世界から学生が集まるような大学が、いい大学だと思っています。近年、千葉工大は災害対応ロボットや感震探索におけるメディアへの露出など、全国的にプラスのイメージが働き、それに伴って志願者も全国に広がっています。この大きな原動力がブランドイメージ戦略にあります。この勢いをさらに確かなものとし、瀬戸熊修理学長が常々言っている『創立

坂本研 院生3人が受賞

材料科学会とヨウ素学会で

日本材料科学会が若手研究者を対象に開いた発表会で、坂本幸弘研究室の大学院生2人が相次ぎ受賞。また、ヨウ素学会のシンポジウムでも一人が受賞した。

■ 菊池佑介さん

(機械サイエンス専攻 博士前期課程2年)

日本材料科学会・平成27年度学術講演大会(6月5日、東京・西新宿の工学院大新宿キャンパスで開催)のポスター発表部門で、若手奨励賞を受賞した。

研究テーマは「高速度工具鋼に被覆したDLC膜の密着性の及ぼす軟窒化処理の影響」

着性により影響を及ぼすかを調査した。

軟窒化処理は鋼の耐疲労性を高めるため比較的低温で処理する方法。硬度を高めるフジカル窒化の後に軟窒化処理を施すことで、DLCと鋼の密着性向上が認められた。

「データを多く取り上げ、見やすいように心がけた」と菊池さん。「受賞できて光栄です。多くの方々に助けていただいた結果で、大変感謝しています」と語った。

■ 中田朋貴さん

(機械サイエンス専攻 博士前期課程1年)

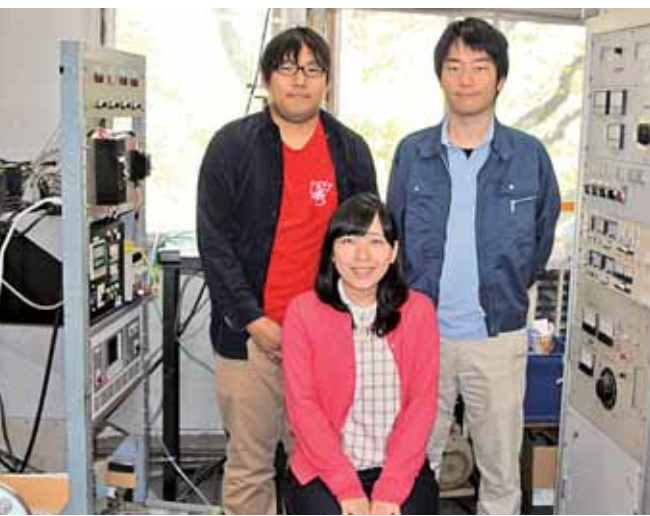
第22回材料科学若手研究者討論会(8月26日、

千葉工大東京スカイツリータワーキャンパスで)韓国の研究者と意見交換する「JKMST2015」と同時開催)でプレゼンテーション賞に選ばれた。

■ 藤巻果織さん

(機械サイエンス専攻 博士前期課程2年)

第18回ヨウ素学会シンポジウム(9月16日、千葉大西葉キャンパスで約230人が参加し開催)で優秀ポスター賞を受賞した。



後ろ左が中田さん、右が菊池さん、手前は藤巻さん

モノ得る過程を説明した。パワーポイントで図表を調整し、発表でいかにわかりやすく伝えるかを心掛けたという。「受賞できて大変うれしい。坂本教授と研究仲間藤井健人さん、田中一平さんらの協力、助言のおかげです」と感想を述べた。

発表論文は「熱フィラメントCVDによるダイヤモンド合成におけるCH4/NH3流量比の影響」

熱フィラメントCVD(化学蒸着法)の一種でダイヤモンドを合成する時、反応ガスにV族(周期表第15族)元素の窒素を添加すると、電界電子放出特性の向上、硬度の上昇などが期待できる。

ダイヤモンド中に窒素を添加することでn型半導体となる。

中田さんは、異なる基板温度でダイヤモンドを合成する時のCH4/NH3ガス流量比の影響を検討し、窒素含有ダイヤモンドの必須元素の一つ

空チャンバー内で、ターレット表面の原子をほじき飛ばして基板に製膜させる方法)し、できた薄膜の組成や特性を評価した。

PM国際資格に8人合格

スキルを測るCAPM®に挑戦

プロジェクトマネジメント(PM)学科の3年生14人が国際資格CAPM®に挑戦し、8人が合格した。

CAPM®(Certified Associate in Project Management)はPMBOK®ガイドなどのプロジェクトマネジメント標準の策定・普及で知られるPMI(米国プロジェクトマネジメント協会)が認定する国際資格。

受験者のプロジェクトマネジメントに関する経験、教育、知識を測るもので、法的資格、免許ではないが、PMスキルがプロの域にあると評価される。資格保有者は現

その結果、チタン膜中にヨウ素を含有させられることを確認。ヨウ素は皮膜表面に均一に分布し摩擦係数が低下したという。

藤巻さんは受賞の感想を「とても光栄です。坂本教授をはじめ研究室の皆様やお世話になった方々に感謝します」と述べた。

在、世界で約2万5000人。試験では、パソコン画面に表示される問題150問を3時間で回答する。受験資格は、実務経験を1500時間以上積むか、公式PM研修を23時間受講した者。このため本学では昨年8月、PPA特別教養講座」の援助を受け、4日間の短期集中研修を開講し、条件

を満たした。研修会では、本学PM学科1期生でPM教育・コンサルテーションを提供する(株)アスプロスの西田純子社長が講師を務めた。

合格者第1号の1人、櫻井拓巳君(PM学科4年)は「学習してきたことをライセンスで証明できて、うれしい。研修会は想像以上にハードだったが、卒業生の先輩から知識をブラッシュアップしていただき、楽しい時間だった。資格取得を通して得た知識を、学会発表や卒業後の実務につなげたい」と語った。

特別教養講座を運営した田隈広紀PM学科助教は「今回の合格者8人は次の通り。▽山崎将君(遠山研)▽加瀬和成君、佐藤隆平君(久保研)▽田頭翼君(堀内研)▽若月純君(矢吹研)▽櫻井拓巳君、野嶋光司君、松田隆聖君(田隈研)に収録。



は「私もCAPM®を受験したが、かなり難しいと感じた。学生から初めて届いた結果報告メールを開くのに少し勇気が必要だったが、合格していたので本当にうれしかった」と喜んだ。そして「今後も講座を企画し、学生たちに社会から評価される実績を付けてほしい」と思っている。そこそこの学生はぜひチャレンジし、先輩たちに続いてほしい」と語った。

鈴木君が奨励賞

CFRPPの質を高める研究

機械サイエンス学科・鈴木浩治教授の研究室で炭素繊維強化プラスチック(CFRP)などを研究する鈴木恭平君(4年)がANSYS Convergence 12.015日本会議の学生ポスターセッション(9月4

日、東京・台場のホテル日航東京で)アンシス・ジャパン(株)、サイバネックトシステム(株)主催でCFRP積層制振板減衰特性の最適化に関する研究を発表し奨励賞を受賞した。

CFRP積層板の性能を落とす要因に、内部振動による層間剥離や層内樹脂割れがあるが、炭素繊維の配向角を変えて振動を減らす特性を高めれば抑えることができる。

鈴木君らは、層間にダンピングシートを挿入したCFRP積層制振板の



Workbench

(解析の各プロセスをつなぐ統合操作環境ツール)を用いた。その結果、振動減衰比を飛躍的に向上させる結果が得られたという。

ポスター発表では、CFRP材料について一から説明を求め人もいれば、解析方法や結果を詳

跳べる竹馬、論文賞

南方准教授、電気学会産業応用部門で



論文賞に決まった。9月3日、大分市の大分大巨野原キャンパスで開かれた部門大会で表彰された。

昨年1年間に電気学会部門誌(和文・英文)に掲載された論文の中で、特に学術・技術に貢献したと評価された。

装置は太ももすねにベルトで装着し、搭乗者の膝の動きや足首の動きを再現しつつ、脚長を40センチ程度伸ばすことができ、習熟すると階段を上ったり、走ったり跳ねたり

南方准教授は「開発に関わった学生たち(在学生・OB)に感謝するとともに、今後も面白いものを作っていければと思っています。もっとも、作っただけでは論文賞になりませんので、学生の皆さん(&私?)は数式を恐れずに取り組んでほしい」と話している。

本学ムチー初優勝

大学体育フラグフット

「大学体育フラグフットボール全日本大会」(実行委員長 松元剛・筑波大准教授)が9月1、2日、新習志野キャンパス西浜運動施設で開催された。フラグフットボールを授業に取り入れている大学が教育効果を見せる目的で開かれ、今年で3回目。

参加したのは筑波大(4チーム)、東京医科歯科大(2チーム)、流通経済大(1チーム)、麗澤大(1チーム)、千葉工大(4チーム)の計12チーム。本学は教養科目「集中スポーツ科学」を受講中の22人が正規授業の一環として参加し



2日目は新設された屋内運動場で優勝した「ロンドンメン」チームが見事、初優勝した。

「初日は大学対抗戦。12チームが3チームずつ4ブロックに分かれ予選を行い、各ブロック1位はカップ戦、2位はプレート戦、3位はボールゲーム。熱戦の結果、カップ戦では千葉工大「ロンドンメン」チームが見事、初優勝した。



2日目は雨で、新設された屋内運動場で開催。所属大学に関係なく抽選で12チームに分かれて対戦。初体験の混成チームでもメンバースは意気投合し、白熱したゲームが展開された。

大会運営では総合学際科目「スポーツイノベーション」が中心となり、フラグフットボール、アメリカンフットボールをもとに考案されたスポーツで、タックルの代わりに腰につけたフラグをとる。そのため身体接触がない。

大学教育に取り入れることで①体格や性別、競技経験などの個人差に関係なく参加できる②参加者全員が役割を持ち、達成する責任を負うこと③から、責任感や協調性を育て、コミュニケーション能力を高めることにつながる④などの教育効果が期待されている。

袖団 活性化ウイーク

建都の3研究室が合同開催

工学部建築都市環境学科の田島・鎌田・佐藤(徹)の3研究室は合同で8月27、30日、住民と一緒に袖ヶ浦団地II写真左の活性化を考える



「夏の袖団活性化ウイーク」を開いた。本学津田沼キャンパスと新習志野キャンパスのほぼ中間に広がる袖ヶ浦団地は全戸数2990戸。昭和42年の入居開始から47年を経て住民の高齢化が進み、将来の空室増加が懸念されている。最近では団地商店街に空き店舗も目立っている。

このため地域を管轄する習志野市と管理事業主であるUR(都市再生機構)、本学の3者が協力して昨年7月、「袖ヶ浦



住民との意見交換会

「このプロジェクトのテーマは、本学学生の団地内でのシェアハウスだ。本学では毎年春、新入生を中心に約2000人が新たな住まいを求め、大きな住宅需要がある。また、新習志野の学生寮は入居資格が2年生までとなっているため、3年生になって寮を出る学生も新たに住まいを探す。こうした学生たちが袖ヶ浦団地に共同で部屋を借り(シェアハウス)、

さらに団地商店街の空き店舗を住民との交流の場として学生が運営することで、さまざまな世代が混在する、活気ある地域コミュニティの再生を目指す」というのだ。このテーマの実現に向け、

「スタンプリー」に加えて、オービックシィガルズを応援しよう!」

社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科・加藤和彦研究室の学生9人「写真」と、津田沼キャンパス近くに広がる「奏の杜」の住民・事業者、オービックシィガルズの3者が共催するスタンプリーが8月29日、「ベルクフォルト」の津田沼店の周辺で行われ、多くの親子連れなどが参加した。

今年も「オービック」応援

PM加藤研がスタンプリー共催

「スタンプリー」に加えて、オービックシィガルズを応援しよう!」

社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科・加藤和彦研究室の学生9人「写真」と、津田沼キャンパス近くに広がる「奏の杜」の住民・事業者、オービックシィガルズの3者が共催するスタンプリーが8月29日、「ベルクフォルト」の津田沼店の周辺で行われ、多くの親子連れなどが参加した。

「スタンプリー」に加えて、オービックシィガルズを応援しよう!」

社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科・加藤和彦研究室の学生9人「写真」と、津田沼キャンパス近くに広がる「奏の杜」の住民・事業者、オービックシィガルズの3者が共催するスタンプリーが8月29日、「ベルクフォルト」の津田沼店の周辺で行われ、多くの親子連れなどが参加した。



「スタンプリー」に加えて、オービックシィガルズを応援しよう!」

社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科・加藤和彦研究室の学生9人「写真」と、津田沼キャンパス近くに広がる「奏の杜」の住民・事業者、オービックシィガルズの3者が共催するスタンプリーが8月29日、「ベルクフォルト」の津田沼店の周辺で行われ、多くの親子連れなどが参加した。

月隕石が語る月の謎

科学未来館で 荒井首席研究員が講演

「中秋の名月」の9月27日、日本科学未来館でトークショー「研究者と一緒に、月隕石の世界をのぞこう!」が開かれ、本学惑星探査研究センター(PERC)の荒井朋子(ペリコ)が、月探査機が持ち帰った岩石試料と月隕石の両面の研究から見えてきた最新の月の姿を集めた小中学生や家族連れに語った「写真」。



「中秋の名月」の9月27日、日本科学未来館でトークショー「研究者と一緒に、月隕石の世界をのぞこう!」が開かれ、本学惑星探査研究センター(PERC)の荒井朋子(ペリコ)が、月探査機が持ち帰った岩石試料と月隕石の両面の研究から見えてきた最新の月の姿を集めた小中学生や家族連れに語った「写真」。

計画と旧ソ連のルナ計画によって飛躍的に進歩した。特にアポロによって持ち帰られた385kgにのぼる岩石試料が研究の進展に果たした功績は大きい。

さらにアメリカの探査機クレメンタインおよびルナプロスペクタにより月の裏側が明らかにされ、月全球のトリウムと微量元素や鉄の濃度の分布がわかった。その結果、アポロ探査機が降り立った月の表側西半球はトリウムと鉄の濃度が極端に高いことが明らかになった。

一方、月隕石は、月面に隕石が衝突した際に、月面から飛び出した月の岩石が地球に飛来したものである。現時点で、世界の研究者が手にしている月隕石の量は約100kgだが、その組成を調べると、アポロが持ち帰った月の表側の岩石とは異なり、月隕石の大部分はトリウムの濃度が低いことが分かった。

このことから、月隕石は月の裏側を含む、アポロが探査した月表側西半球ではない地域に由来すると考えられる。

また、アポロが持ち帰った月の地殻表面を覆っている斜長岩には5~10%の輝石が含まれているが、月隕石から地殻岩石を見ると、輝石はほとんど含まれておらず、橄欖石が含まれている。つまり月の表側と裏側とは地殻の組成が違うのではないかと、「二分説」が浮上しているが、答えは出ていない。

月探査は今後、人類の月への移住、さらに月面基地を拠点としてさらなる宇宙へと飛び出す方向に進むだろう。そのためにはまず、人間が住むために、そして基地を建設する前に、月の全球の地質や構成物質を理解する必要があり。それには、月隕石やアポロの試料の継続的な分析と月探査衛星によるリモートセンシングデータの解析が不可欠である。一見関係がないように見える月試料の研究と月探査計画も、実は密接に補完し合っている成果を挙げている。

活躍する 校友

本学第1期生

松本 忠夫氏 (92歳)

(昭和22年、機械工学科卒)

1期生が回想録を公開

戦後70年。青春を翻弄された戦時下の記憶は消えつつある。「思い出すよすがに」と本学の前身、興亜工業大学予科1期生、松本忠夫さん「写真下」が当時の回想録をまとめた。回想録は「大学生時代回想」と名付けられたA4判60ページにわたる大作だ。このほか、当時の教科書や参考書などの貴重な資料、写真などは今後、同窓会で全てをデジタル化し「実物」とともに図書館に保管され、現役学生が閲覧することも可能となる。この回想録や資料の寄贈を機に、今夏、27年ぶりに訪れた津田沼キャンパスで一端をうかがった。



瀬戸熊理事長(右)、小宮学長(左)と



寄贈された資料の一部



戦禍にもまれた学生時代

■ 零戦に惹かれ予科に
埼玉熊谷市生まれ。戦闘機「零戦」のメーカー・中島飛行機のあった群馬県太田市に近い。空を舞う勇姿にひかれ、旧制中学を終えて航空技師を志し、玉川学園(東京都町田市)の一角にあつ

た興亜工業大学予科(教養課程)に入ったのは開校と同じ1942(昭和17)年6月である。玉川学園の創立者は「全人教育」で有名な小原國芳氏(1887~1977)だ。同学園の大学部として本学は誕生を予定していたが、時勢か

ら「玉川」の名は冠せられず、現存するのが国最古の私立工業単科大学興亜工業大学として船出。軍事教練の一方でリベラルアーツを重視、「工学部の進学生はゲーテを原語で読むことはなからう」(独文学者の故・井上正蔵氏)と「ファウス

若い人は好きなきことを...

変化は速い

わらうとしていた。開学したその月、日本は太平洋上ミッドウェー海戦で大敗を喫し、暗雲に覆われ始めていた。「国民は知るよしもない」(松本さん)。

■ 戦災で校舎を間借り
だが、軍靴の響きは増すばかり。とくに武装のまま初秋(閉山後)の富士へ登る年に一度の富士

て現われた。松本さんら寮生は近隣農家でイモや栗を買い出しし補った。一方、合唱団に加わってベートーベン第九「合唱」の舞台に立ち、大東

に松本さんはこう寄せた。「美しき雲に翔ける一機二機。第一回は予科も修業年限を短縮。学生の徴兵猶予停

止だ。とくに飛行兵、航空技師は求められ、大日本飛行協会技術班員となった松本さんは陸軍航空士官学校などで訓練に追われた。

卒業76人、戦没なく

そのため、「生らもともより生還を期せず」(出陣学徒代表の辞)と雨中の明治神宮外苑を行進した学徒壮行大会(43年10月21日)の見送りは参加できずじまい。自身もその翌月、徴兵検査を受け、時期未定のまま東部102飛行部隊(千葉県松戸市)へ入営を命じられている。

下宿から遠くはない横浜大空襲(45年5月29日)を目撃し、ほどなく8・15を迎える。「空襲や入営の心配が消え、うれしかった。正直だ。冶金工場は使用不可となり、東京工大に間借りしたあと46年春、千葉県君

戦争だけはごめん

3年のはずの予科は2年3カ月で修了、44年秋に航空学科(3年制)へ繰り上げ進級となった。

津町(現・君津市)の両西校舎へ。軍備につなが

この間、本学は玉川学園の地を離れ、上智大学東京や川崎市にある日本冶金工業内の仮設教室を転々。宿題をサボったら「同じ年齢の者が前線で戦っている。内地の君た

本学の研究は今や宇宙へ及ぶ。「私の時代は布張り飛行機と言ってもよいころ。変化は速い。若い人は好きなきことをすべし。でも戦争だけはごめん」。



予科第1期生の入学記念写真(昭和17年6月8日)



学生時代の松本氏



日本航空横浜基地で合宿訓練(昭和19年6月22日~7月6日)

本学フォーミュラ本格復帰

全日本学生大会に2年連続出場



大会出場を果たした自慢のマシンを前に

本学の学生フォーミュラチーム「FCIT Racing Team」が9月1日から5日まで静岡県袋井市の小笠山総合運動公園で開催された第13回全日本学生フォーミュラ大会（主催・自動車技術会）に2年連続で出場を果たした。

FCITは2010年まで同大会に4回の出場実績があったが、11年から出場が途絶え、昨年の大会で4年ぶりに復帰。今回の出場で本格的に息を吹き返した。

学生がチームを組んで企画・設計・製作したフォーミュラスタイルの小

型レーシングカーの性能を競うこの大会には、毎年全国の理工系大学がチームを送り込んでいる。今年は韓国、台湾、フィリピン、タイなどの海外勢15チームを含む90チームがエントリーした。

大会では、走行性能だけでなく、車両コンセプト・設計・コスト審査など、ものづくりの総合力が試される。このため車検に加え、コスト・プレゼンテーション・デザインなどの静的審査に合格したマシンだけが実際の走行競技（動的審査）に進むことができる。

FCITは今年の大会にリーダーの村上祐貴君（機械サイエンス学科4年）以下18人の学生と、ファカルティアドバイザー（FA）を務める村



車体を裏から点検整備

越後・工作センター担当課長の熊野が臨んだ。「FCIT R02」と「サービリティ」という名付けたマシンは、カウルにガラス繊維を樹脂で

4層に固めた強化プラスチックを使い、排気量500CCのヤマハ発動機製エンジンに、全出場車中2台だけというCVT（無段変速機）を採用している。

FCITの活動は、チームのウェブサイト（<http://fcitr079.wix.com/fcitr>）をご覧ください。

理工学教室 今年も

市民と触れ合いの時間

本学の卒業生・学生有志が進める「習志野市理工学教室事業」（同教室実行委員会＝市川淳委員長、八金融・経営リスク科学科卒OB）ら5人（主催）による出前教室が8月27、30日の2日間、習志野市市民プラザ大久保で開かれた。

催しのタイトルは「一日放送体験」▽ミニステリー電子工作▽牛乳でつくるキーホルダー作り▽など。理工系らしく工夫を凝らした企画に文化会とCITものづくりチームが協力。夏休み中の親子ら延べ40人が参加した。



理工学教室を楽しむ子どもたち

市民に生涯学習の機会を提供し科学技術に触れてもらおう、と学生有志と卒業生らが、市民を交え実行委を組織して平成25年度から開始。昨年度に続き、今年度も習志野市の市民参加型補助金対象事業に採択された（市が6月14日、京成津田沼駅前・サンロード津田沼で公開プレゼンテーションを開き補助対象を決定）。

先生としてイベントに参加した猪飼智美さん（生命環境科学科1年）は「人の前に立って教えることは難しく、うまくいかなかったところもあったが、いい経験が出来たと思う。私自身、作ることや科学の実験が楽しいので、モノづくりの楽しさを子どもたちにも感じてもらえたらうれしい」と話した。

クラブの活動状況

文化会	期間	大会・発表会名
総合工学研究会	8/1	ロボット操縦体験
電子工学研究会	8/22	2015年度ルネサスマイコンカーラリー競技会&技術交流会
吹奏楽部	8/1、23、11~23	Field Day コンテスト/アキバ大好き！祭り/ハムフェア2015
TRPG研究会	8/2	習志野駐屯地夏祭り
写真部	8/2、3、14、25	放課後子供教室/コミックマーケット88
演劇部	8/3~6	千葉工業大学文化会写真部 13期生展 自由帳
環境科学研究会	8/24~30	夏期学外展 ナツテン
マンガ研究会	8/6	老人ホームでの公演
美術部	8/9	水環境調査
精密ロボット工学研究会	8/16	コミックマーケット88
鉄道倶楽部	8/17~23	千葉県大学美術連盟展
手芸倶楽部	8/21~23	かわさきロボット競技大会
ハワイアンクラブ	8/22	5マンション夏祭り
軽音楽部	8/5、26	きらきらサロン/ミニディ
	8/26	3サークル合同ライブ
	8/26	3サークル合同ライブ
体育会	期間	大会・発表会名
自動車部	8/9、24	全日本学生ダートトライアル選手権大会/全日本エコドライブ選手権大会
卓球部	8/22、23	全日本学生ジムカーナ選手権大会
二輪部	8/6、7	第9回学生卓球チームカップ
ビーチバレー愛好会	8/2	キャンパスオフロードシーティング東日本大会第三戦
山岳部	8/22、23	ビーチバレーカップ in 御宿
よさこいソーラン風神部	8/2~10	鮎岳
アメリカンフットボール	9/6	ザ・よさこい大江戸ソーラン祭り
	8/30	合同練習

上記クラブのほか、多くのクラブが課外活動に励んでいます。定期的にいろいろなクラブの活動状況をお知らせしています。学生たちのがんばりにご期待ください。

同窓会



我が家に柴犬が来て二年半。時間がある時は家内と一緒に散歩に行く。散歩で気づいたことは、若い世代からお年寄りまで、ご夫婦で楽しそうに散歩している姿が多いことである。最初は挨拶を交わす程度だが、顔見知りとなれば話もする。名

前も知らないのに、職業や家族構成を知っている人も多い。同じ目的や趣味を共有している者同士は、家内の運動不足の解消目的で迎えたが、散歩は近所付き合ひ、夫婦の会話を増やす良い機会となった。是非、お試しあれ。ところで、家内曰く「散歩をしないと御飯がおいしい。いくらでも食べられる。!?」これからの食欲の秋。散歩したからと言って食べ過ぎ注意！

デザイン科学科 大嶋 辰夫

四季雑感



天高く馬肥ゆる秋が訪れた。秋といえば食欲の秋、そしてスポーツの秋。暇を見つけてはテニスに勤しむ我が身には絶好の季節といえる。テニスを始めて22年。本来なら結構な上級者だと主張したいところだが、市民大会でもB級とまり。テニス歴がせいせい10年程

度しかないであろう大学生にも勝てないのは残念な限りだ。しかしながら、それも当然の帰結かもしれない。小学生あるいは中学生といった小さい頃からテニスをしている人は、体の使い方が全然違う。ボールに対して美にスムーズにラケットを振る。まるで手で打っているかのようにラケットを使う。やはり小さいうちに体に覚えさせるといことが、大事なのだろう。

情報ネットワーク学科 熊本 忠彦

編集だより



日本最大級の町おこしイベント「Bリーグランプリ」が十和田で開催された。記念すべき第10回目にゴールドグランプリに輝いたのは「熱血!! 勝浦タンタンメン船団」。千葉県在住であれば、「勝浦タンタン」と言っ

は、隣町である御宿に住む私にとっても、大好物の勝浦タンタンメンが悲願のグランプリを獲得した事は、地元出身の後輩に朝一で「オメデトウ！」とメールしたほどウキウキな出来事だ。

勝浦タンタンメンは、昔から海女さん・漁師さんが寒い海仕事の後に冷えた体を温めるメニューとして定着したもので、味の要が醤油ベースのラー油。寒さが増すこれ

からの季節に、ぜひ、体の芯から温まりに勝浦へ行ってほしい(笑)。

そんな幸せ気分を浸っていた朝のひとときに、立ち上がった瞬間「グギッ」と体の要である腰を痛めてしまった(プチぎっくり)。普段頑丈なだけに、体の不調は気恥ずかしい。勝浦タンタンだけに、「オイシイ話と笑うしかない。

入試広報課 大橋 慶子